団体名：北海道難病連苫小牧支部
回答日：平成 30 年 1 月 23 日

要望書（回答）

１　災害時の避難協力の要望

災害時の難病患者、障害者の非難には普段からの自らの備えと地域、町内会との連携が不可欠と思われます。苫小牧市に於きましてはこれらの対象になる方々の要支援者名簿を作成して頂いている段階と伺っております。

実際の運用はどのように行われるのかお示しを頂ければと思います。

実際に活動されるのは地域町内会が中心となると思いますが、町内会の構成も老齢化が進んでいると思われます。その中で避難訓練なども必要になってくるかと思いますが、現時点で避難訓練がなされている町内会では要支援者を避難させる場合、どの様な問題点があるのか、又要望などがありましたらお聞かせ下さい。支部として協力出来る事柄については一緒に検討したいと思います。

又、苫小牧市として主体的な取り組みは不可欠ですので、しっかりした避難体制の整備を要望致します。

【回答】（市民生活部危機管理室　担当）

避難行動要支援者名簿は、災害発生時には警察や消防、自衛隊、町内会といった支援関係者に情報開示し、災害対策に活用できることとなっており、平常時については、事前に同意いただいた方の情報のみ、支援関係者へ開示することができることとなっています。

現在は、町内会の御理解のもと、市から町内会に同意をいただいた方々の名簿情報を提供し、地域での支援体制の整備に向けた取組を随時進めているところです。

要配慮者支援の訓練として、一昨年はもえぎ町町内会を中心とした津波避難及び避難所開設訓練において、昨年は総合防災訓練を通じて警察及び消防団と連携して逃げ遅れた要配慮者の救出・救助訓練を行いました。

この中で、具体的な介助・支援方法を平時から繰り返しシミュレーションしておくことの重要性が再確認されたほか、課題として支援者確保の難しさなどが挙げられています。

こうした訓練での成果・課題等は、北海道難病連苫小牧支部様とも情報交換し、今後の対策に役立ててまいりたいと考えております。

今後も町内会の御理解をいただきながら、名簿情報に基づいた支援体制の整備を進めていくとともに、訓練等の継続により課題を整理し、要配慮者の安全確保に努めてまいりたいと考えております。

２　新設の苫小牧市民会館の設備環境に対する要望

苫小牧市は老朽化した市民会館を新設する方針と伺っておりますが、新設に関して是非、私達も積極的に参加出来る様な施設造りを要望致します。

１．歩道、スロープは平坦な面で車椅子の前輪が引っ掛かり転倒などの危険が無い素材にしてほしい。白杖の使用者には点字ブロックとの区別がつきやすい仕上材にしてほしいと思います又、滑りやすい素材は避けて頂きたい。

２．出入口には段差を作らないでください。止むを得ない場合はスロープ、手摺を設置して頂きたい。

団体名：北海道難病連苫小牧支部
回答日：平成 30 年 1 月 23 日

３．駐車場からの移動も車椅子で容易に出来るようにして頂きたい。冬場の雪などを考慮して建物近くに難病患者、障害者の駐車スペースの設置と、転倒防止と移動しやすい融雪装置の設置も希望致します。
４．建物内部の床素材は濡れて滑りやすい素材は使用しないでほしい。
５．館内案内板は点字表示（展示ブロック、触地図）は勿論だが、弱視者にも理解しやすさを第一に考えて頂きたい。
６．階段、角等に色を付けて目立たせて欲しい。視覚障害者にとって、高さが変わるところと認識できる為。平坦地とスロープの境目など。
７．手摺に点字案内プレートを埋め込んで頂きたい。
８．階段の蹴上は出来るだけ小さくしてほしい。片マヒの方の為に手摺は両方に設けて頂きたい。幅は広くとって欲しい。
９．災害時の誘導は避難方向が聴覚障害者や視覚障害者が単独でもはっきりわかる様、配慮して頂きたい。（音声・光など）
１０．エレベーターの設置を要望致します。（急病時の搬送ベットが入る大きさ）扉の適当な位置に透明な窓を設けて頂きたい。地震等で止まった時に聴覚障害者の手話や筆談が出来、安心が増す。
１１．音声で階数のアナウンスをしてほしい。
１２．各階に設置するトイレは男子、女子用にそれぞれ設置をお願いしたい。
１３．水洗トイレスイッチは車椅子の方が使用できる位置に設けて、スイッチの種類も簡素でわかりやすい表示にして頂きたい。（多すぎてわかりずらい）
１４．便座は正面を向いた形を基本にしてほしい。杖や車いすの方がカニ歩きをしなければならない為、使いづらい。
１５．車椅子の方でも使用できる低い位置に荷物掛けフックか物置台の設置をお願い致します。
１６．トイレ内に災害を知らせる音、光による通報装置を設置していただきたい。
１７．すべてのスイッチには点字表示をして頂きたい。
１８．腹膜透析者のバック交換、疾患患者の休息等の為に部屋を設けて頂きたい。
１９．観客席に難病患者、障害者の優先席を設けていただきたい。（避難等の為、入口付近に設置）
２０．避難通路、スロープは健常者とは一緒では混乱するので、別のルートを設けて欲しい。
２１．聴覚障害者、視覚障害者の為に、テロップ、イヤホンなどの設備をお願い致します。
２２．館内に移動の手助けを頂けるボランティアの常駐を要望致します。

【回答】（市民生活部市民ホール建設準備室　担当）

市民ホールの建設につきましては、策定した基本構想や市民意見を踏まえ、今年度は建設場所や施設規模・機能などについて示した基本計画を策定する予定でございます。

御要望いただいた点につきましては、苫小牧市福祉のまちづくり条例などの中でも配慮することになっており、御要望の主旨を十分に踏まえ、今後の設計において参考にさせていただきたいと考えております。

団体名：北海道難病連苫小牧支部
回答日：平成 30 年 1 月 23 日

３　ヘルプマークについて

関節障害、妊婦、内部障害者、難病患者が社会生活に支障が有る場合に一般市民の皆様に手助け頂けるヘルプマークを身につける事で、障害者、妊婦、難病患者の活動範囲に幅を広げ、社会に積極的に参加できる環境つくりを目的に東京都で２０１２年に取り組み始めたとされています。

苫小牧市に於いても本年度中にヘルプマークの配付をお考えと伺っております。

私達にとりまして、困ったときに手助け頂けることは大変有難いことです。

ヘルプマークを付けている事で、手助けする方も手助けしやすくなると思います。

又、ヘルプカードに緊急の連絡事項などが記入出来れば尚、宜しいかと思います。

市民の皆様にもヘルプマークは体に支障がある方が付けていて、困っている時には手助けを求めて付けているのがヘルプマークと云う事を広報などで周知活動を行なって頂きたいと思います。

ヘルプマーク、ヘルプカードについて苫小牧市ではどの様に運用されるのかお聞かせ下さい。

【回答】（福祉部障がい福祉課　担当）

ヘルプマーク・ヘルプカードの運用につきましては、北海道が主体となり各市町村を通じて配布を行う取組を開始したことから、本市におきましても平成 29 年 12 月 1 日より配布を開始しております。北海道が主体となる取組が平成 29 年度のみの実施となることから、本市において、今後どのようにヘルプマーク・ヘルプカードの普及に取り組んでいくべきか、配布数等の動向を把握しながら検討してまいりたいと考えております。

４　ｉＰＳ細胞による再生医療の要望

難病の治療薬、疾患のｉＰＳ細胞による再生医療には多くの期待を持っています。

本年１１月５日に北海道難病連苫小牧支部主催で道央南地域研修会に於いて、札幌医大の整形外科森田准教授の講演があり、脊髄損傷などで手足がマヒした患者に再生医療を施すと、２４時間後には動かなかった手足が動くようになる様子を動画で見せて頂き、参加者から拍手と歓声が沸き起こりました。

先日、東京慈恵医大で腎臓の再生でも尿を造れるまでに進んでいるとの発表がありました。

今まで不治の病と云われて来た難病がこのように再生医療により希望が持てる状況になってきております。私達難病患者、障害者にとりまして大きな希望です。

このような情報を苫小牧市として広報などで知らせて頂けませんか。

希望は生きる力に大いに役立つものと考えます。

【回答】（健康こども部健康支援課　担当）

再生医療につきましては、ｉＰＳ細胞を用いた移植手術が行われるなど、着実に成果を上げており、これまで有効な治療法のなかった疾患の治療ができるようになるものと、大いに期待しているところです。

しかしながら、自治体として再生医療の現状の正確な情報を入手することは、非常に困難であることから、広報での掲載は難しいものと考えております。

再生医療に関する情報の一つとして、厚生労働省ホームページに掲載がありますの

団体名：北海道難病連苫小牧支部
回答日：平成 30 年 1 月 23 日
で、こちらを活用していただきたいと思います。

５　苫小牧市発行の障害者地域生活支援ハンドブックについて

苫小牧市では　障害者地域生活支援ハンドブック「逢」あい　を発行しておられます。大変便利なハンドブックで利用されている方も多いと思います。

しかし、大変残念な事に、北海道難病連苫小牧支部の記載がなされておりません。記載をお願い致します。

【回答】（福祉部障がい福祉課　担当）

現在発行している障がい者地域生活支援ハンドブック「逢」には、障害者就労支援事業所はもとより、関係団体の活動内容等を掲載させていただいております。

障がいのある方等を取り巻く環境が目まぐるしく変化する昨今におきましては、情報の更新が非常に重要であると考え、ハンドブック「逢」はおおむね 2 年ごとの更新を計画しているところですので、関係団体の掲載スペースの拡大を図るなど貴部の記載について検討してまいりたいと考えております。